はじめに

企業と社会フォーラム（JFBS）学会誌第7号は，「サステナブル・エンタープライズ：企業の持続性と社会性」をテーマとした第7回年次大会での議論を踏まえ，その後の研究成果をとりまとめ，さらに投稿論文等を加え構成されている。

近年，地域社会，地球社会の持続可能な発展に貢献するビジネスのスタイルが問われている。責任あるビジネス，ソーシャルあるいはサステナブルなエンタープライズを巡って国内外でさまざまな取り組みが進められており，ステイクホルダーを配慮する意識の高い企業について多くの論者が議論を展開している。ここ10年余りの間に，アメリカでは株主利益のみならず環境や地域社会，従業員などステイクホルダーの利益を重視していこうとするB-corporationの認証システムやいくつかの州ではBenefit Corporationという新しい法人形態，ドイツでもgGmbHといった法人形態が導入されている。そこでは，ビジネスの成功とは何か，社会的なインパクトを与えるビジネスのスタイルについて根源的な問いかけがなされている。

日本ではそうした法人制度はないが，企業の持続性という観点からみれば，数百年以上にわたって存続し，地域社会から愛され支持されてきた長寿企業が数多く存在している。こうした長寿企業における知見がどのようにして積み重ねられてきたのか，そしていかに持続可能な競争優位を構築することができたのかについて改めて考えることは重要である。また地域社会における経済を支えてきた企業の多くはファミリービジネスである。日本には数多くのファミリービジネスが存在しており，そこでは世代を超えて持続可能な経営を実現してきた数多くの知見がみられる。これら長寿企業やファミリービジネスをサステナビリティーやステイクホルダーとの関係性といった視点で検討することは，持続可能な企業や良い企業を考える上で，きわめて重要な意味を持っていると考えられる。

一方，既存の大企業においても，持続可能な発展にビジネスの力を通して貢献する取り組みがさまざまになされ，成果を上げてきている。

企業と社会フォーラム第7回年次大会は持続可能な企業のあり方というテーマで，2017年9月7日（木），8日（金）の2日間にわたり早稲田大学にて開催された。大会には日本のみならず，イギリス，タイ，台湾，デンマーク，ドイツ，ニュージーランド，バングラディシュ，ベトナムなどからも多くの参加者が集まった。学界，産業界，労働界，NPO/NGOなど各セクターから多面的な議論が繰り広げられた。

大会は，CSR論の大家Jeremy Moon教授（Copenhagen Business School, Denmark），および創業300年を誇る老舗企業の寺田優氏（寺田本家代表取締役）による基調講演，それに引き続いての全体セッションから始まり，企画セッションでは「長寿企業から学ぶ企業像」，「サステナビリティーと地域金融の在り方」，「ソーシャル・ビジネスの組織戦略」，「サステナブル・ビジネスモデルの構築」をテーマに，さまざまな業種の企業および団体による具体的な取り組みを踏まえパネルディスカッションが行われた。

また自由論題報告セッションでは“Sustainable Management”，“Law and Sustainable Corpora-

tion”, “Social Business Model”, “Finance and Non-finance”, “Sustainable Business”, “Sustainable Reporting”, “Working Condition” などのセッションに分かれて，全部で22本の研究報告・ケース報告がなされ，活発な議論・交流が行われた。

本大会では土肥将敦（法政大学教授），Gabriel Eweje（Associate Professor, Massey University, New Zealand），Sarah Jastram（Professor, Hamburg School of Business Administration, Germany），Jeremy Moon（Professor, Copenhagen Business School, Denmark），大室悦賀（京都産業大学教授），René Schmidpeter（Professor, Cologne Business School, Germany），Joachim Schwalbach（Professor, Humboldt-University of Berlin, Germany），谷本寛治（早稲田大学教授）がプログラム委員会を構成し，大会プログラムの立案，自由論題報告およびDoctoral Workshopのプロポーザルの審査，企画セッションの司会などを担当した。

本学会誌には，この年次大会のテーマに関する「イントロダクション」，「招待論文」，「投稿論文」，「学界展望」が収められている。投稿論文に関しては，JFBS編集委員会（委員長 國部克彦神戸大学教授）による審査（double-blind review）が行われ，今回は国内外から投稿された5本の論文のうち1本が最終的に掲載されることとなった。今後も積極的な投稿を願っている。また学界展望では，研究者がグローバルなアカデミック・コミュニティーにおいて研究し論文を出版していく際に求められる基本的な要件についてまとめられている。一つのガイドとして広く参考にされることを期待している。

2018年9月の第8回年次大会においては，「企業と社会の戦略的コミュニケーション」（Strategic Communications in Business and Society）をテーマとして議論を行う。企業やNPO/NGOなどの組織が社会と良い関係を構築し維持するためのコミュニケーション戦略について多面的に議論する予定である（詳しくはJFBSのウエブサイトを参照 http://j-fbs.jp/）。多くの研究者，実務家の積極的な参加，議論を期待している。

最後に，今号も発行に当たっては千倉書房に大変お世話になった。記して感謝の意を表したい。

2018年5月

企業と社会フォーラム会長
早稲田大学商学学術院商学部教授
谷本　寛治